

(10)九州



九州地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

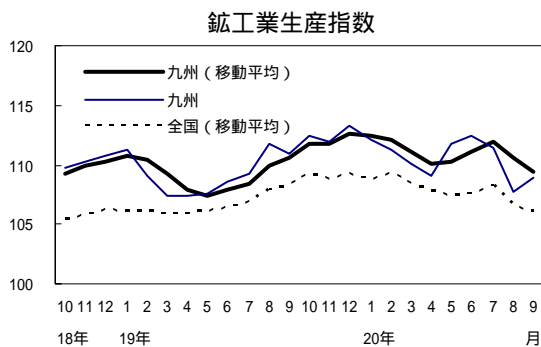
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	回復の動きに足踏み	弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに減少	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況であり、緩やかな改善の動きに足踏み	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

電子部品・デバイス、携帯電話等に用いられるモス型計数回路（ロジック）の需給が緩んでおり、減少している。輸送機械は、船舶が高水準の受注残を抱えフル操業を続けているものの、自動車は北米向けで伸び悩み、減少している。食料品・たばこは、ビール類に反動減がみられ、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、半導体製造装置を中心に減少している。化学は、医薬品が増産したため、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電子部品・デバイス	15.6	3.6	3.3	5.7	11.7
輸送機械	15.4	0.4	0.9	1.1	20.5
食料品・たばこ	10.6	1.9	0.2	0.1	0.6
一般機械	10.6	1.2	5.5	6.0	2.3
化学	8.2	1.4	3.9	0.8	5.8
鉱工業	100.0	0.0	1.6	2.3	3.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

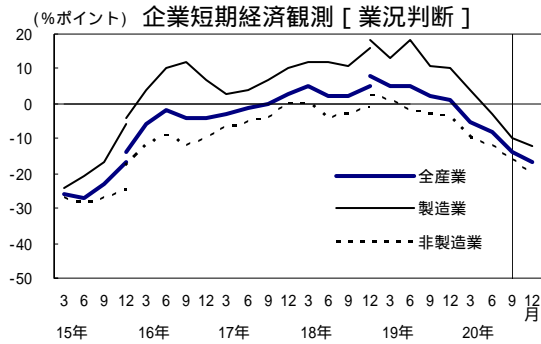
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

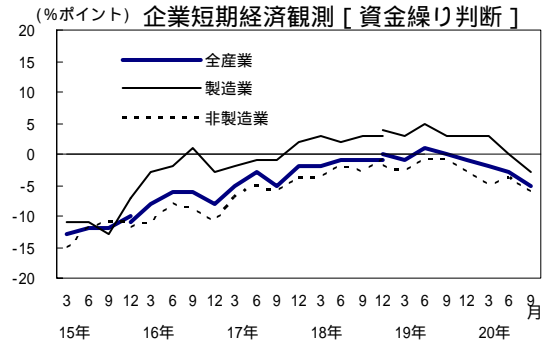
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

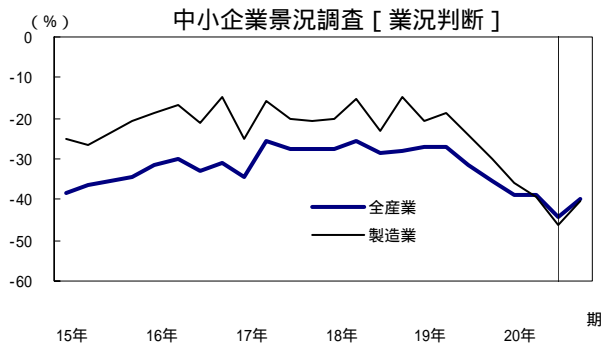
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

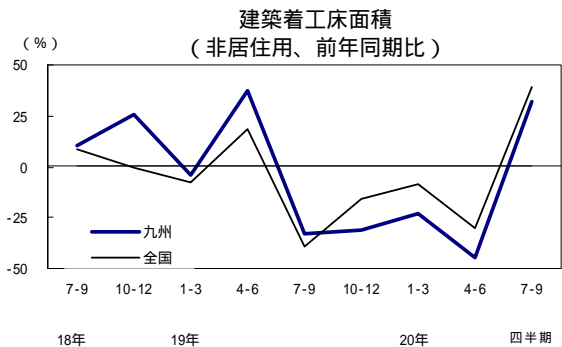
「自動車産業の売上不振により、ここ数か月は見積すらない。自動車以外も受注量は減少傾向である(一般機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.7	5.4 (4.1)
製造業	32.3	18.3 (8.9)
非製造業	5.1	6.0 (0.6)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

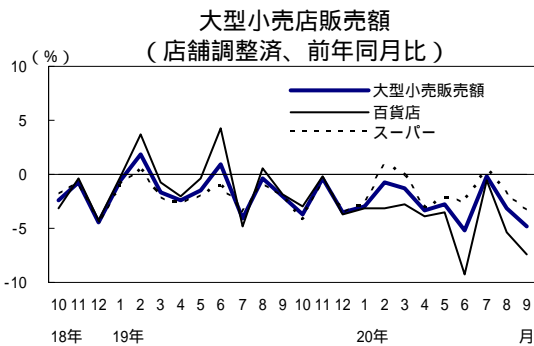
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、飲食料品のギフト関連商品に動きがみられたものの、クリアランスセールの出だしに好調であった衣料品が中旬以降に伸び悩み、全体では前年を下回った。8月は、オリンピック開催や天候不順に伴う来客数の減少が影響し、前年を下回った。9月は、台風や多雨といった天候要因により全般的に動きが鈍かったほか、朝晩の冷え込みが少なかったため秋物商材が不調で、全体でも前年割れとなった。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の10月の売上高は前年同月比で5.8%減となっている。

スーパーは、飲食料品に動きがみられたものの、衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「買い控え傾向が強まっている。また必需品と言われる冬物防寒衣料の単価がかなり下がっている。また高額品の動きも悪く、特に美術、呉服、宝飾等の百貨店が最も得意とする分野が非常に厳しい状況である。またインポートブランドの動きも極めて悪く、これまで経験したことがないような厳しさである(百貨店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

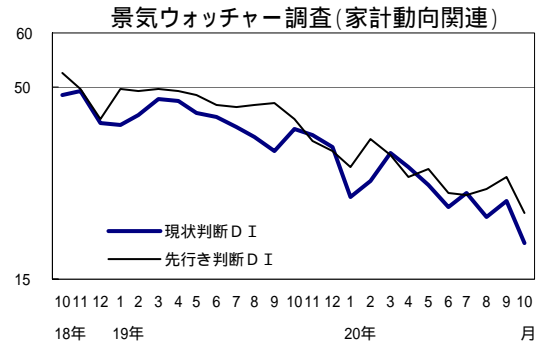
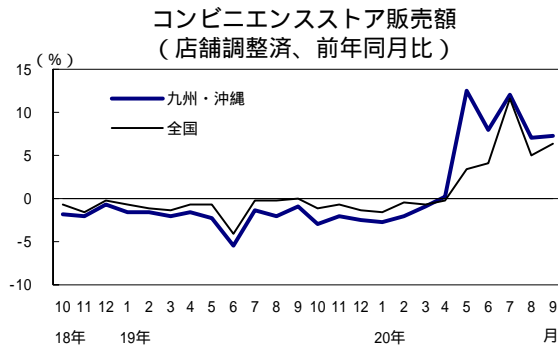


	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.7	1.7	3.8	2.5
百貨店	2.4	3.1	5.5	4.0
スーパー	2.9	0.8	2.6	1.5
コンビニ	2.5	1.8	6.9	8.8
景気ウォッチャー	41.1	33.6	31.9	28.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

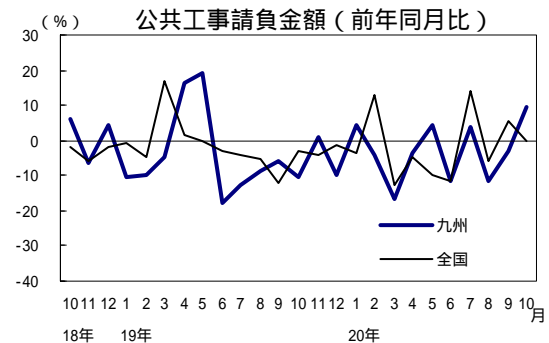
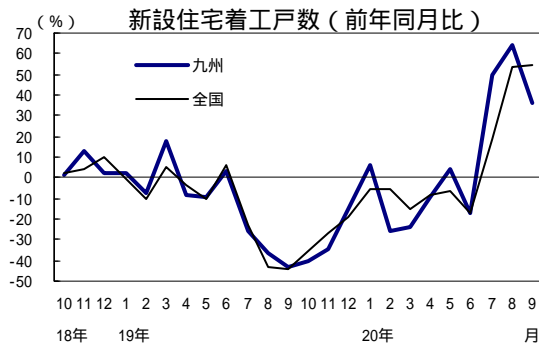
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

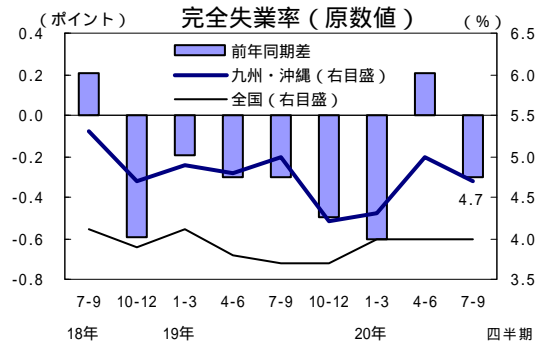
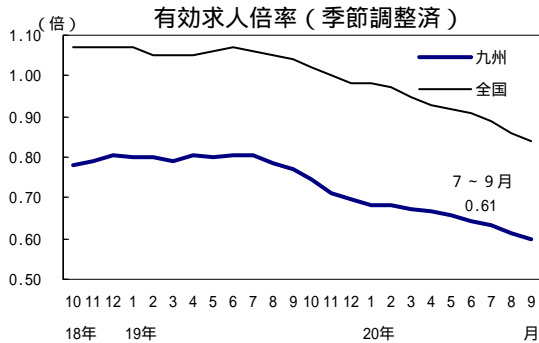


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

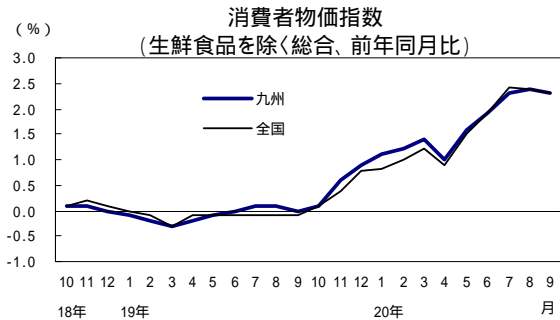
「派遣先の業績不振による派遣終了などが増えている。半導体関連は深刻であり、早期退職者を募るようである。また秋のイベントシーズンであるが、単発の依頼も少ない(人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	310	313	352	357	129
(前年比)	10.3	16.8	8.0	11.2	14.2
負債総額	1,523	795	1,712	1,575	249
(前年比)	46.8	12.7	69.5	76.6	16.7



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・建設業、土木関係の企業がかなり多い地域であるが、県や市町村からの公共工事の発注がなく、資金繰りが非常に厳しい状況にある。原油価格高騰等に伴う資金繰り安定化制度が県から打ち出され、それを利用する企業が増えている(金融業)

<先行き>

・減税の話もあるが、具体的な効果が消費者に届いていない。年間最大の商戦を迎えるが、今年は極めて悪い状況が予想され、非常に危機感を持っている(百貨店)

